



建築設備技術遺産

認定第 28 号 新晃 SRD 型エアーディフューザ
(SINKO"SRD"AIR DIFFUSER)

管理者：新晃工業株式会社

所有者：新晃工業株式会社

本機は 55 年前に採用された空調制気口である。1962 年（昭和 37 年）に竣工した住友ビル本館に、当時としては斬新なインテリア 3m×3m モジュールのオフィスに約 7000 個設置され、現在も住友グループの代表的な建物に設置され続けている。

「SRD 型エアーディフューザ」の名称に「吹出・吸込兼用の風量調整機構付きエアーディフューザ」の副名が添えられている。SRD は Supply-Return-Damper の頭文字を取った製品名であり、一つの制気口で吹出し、吸込み（周囲が吹出し、中央部が吸込み）を行い、吹出し、吸込みともに風量調整（コーンの上げ下げによる）ができる機構を内蔵している。形状は丸型アネモスタットに近似している。当ディフューザの上に専用のボックスを設置し、サプライダクトとレタндаクトが接続される。

特長は、間仕切りへの自在性、室内気流分布の均一性、室内温度・湿度の均一性、風量調整の自在性と、カタログに記載されている。どれもオフィスのモジュール化、空調環境制御要素として重要な事項である。

本機は、オフィスのモジュール化の初期における、個別完結性、良好な空調環境をつくるために開発された制気口である。以後オフィスのモジュールに対応した風量制御（VAV 等）、天井吹出し空気の拡散性等の技術が発展、普及し現在に至っている。

当時の製品が、新晃工業 SINKO テクニカルセンターショールームに展示されていて見学が可能である。55 年前のオフィスのモジュール化初期の製品であり、建築設備技術遺産として認定に値するものである。



新晃 SRD 型エアーディフューザ